

第三者評価

1 個性や能力の伸張を図るきめ細やかな学習の充実

- 生徒1人1人を尊重した教育は、とても難しいと思いますがそれぞれの生徒が自分自身の強み弱みを知る事により将来の方向性の決定に役立てる事が出来るのでより多くの具体的取組を、試みる事願います。
- chromebookを活用した授業実践が学校全体で進んでいる。より良い活用方法を目指して実践例の蓄積などが指摘されており意識が高い教員集団と感じます。
さらに授業改善の取組を進め明確な課題も指摘されており、指導方法や指導体制の工夫改善が進み個に応じた指導の充実が進んでいると感じます。
- 学校生活の中で生徒も教員もやらなければならないことがたくさんあり、その指導方法や体制づくり、準備などに対し、より一層の工夫が求められると思います。クロームブックの導入は大変良いと思います。
- chromebookの活用に対する評価が高いと思います。ICT活用の一層の充実を期待します。「個に応じた指導」については、教師の視点から見た、一人一人の生徒に応じた「指導の個別化」と、指導の個別化によって生徒自身が自分の学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」という視点があると思います。指導する側の視点が中心になってしまいがちになりやすいので、その指導等が生徒にとってどうなのか(3に関連すると思います)ということの評価・検証することを一層充実させることも考えられると思います。
- 授業でchromebookを活用するなど、新しい学習法を研究していることは評価に値する。また観点別評価に対応する授業への取り組みも積極的に行われている様子がかがわれる。しかし、教員の意見を読むと、皆が肯定的に捉えているとは言えない。各教員によって対応の差があるようで、教員間の意思疎通ができていないのを感じる。まずは教員がしっかりと授業方法を共通のものとし、研修を重ねて相互に理解し、確認できる体制が必要ではないだろうか。また、個々の生徒の能力に合わせた指導は目指していかなければならないが、全員に満足してもらえる方法を見出すのはなかなか難しいと思われる。それでも、生徒に寄り添ってわかりやすい授業を目指すことは必須である。保護者の意見は肯定的なものが多く、先生方の努力がある程度伝わっていると思われるので、課題はありつつも前向きな姿勢で今後も取り組んでいってほしいと願う。

2 生徒の多様化に対応する健康・安全教育や教育相談活動の充実

- 自己評価を認識しつつ他者を価値のある存在として尊重する他者理解力の強化の教育活動を引き続きお願いします。
- 教員が一人ひとりの生徒にきめ細かく対応していることから、課題や改善点が指摘されていますが、情報の共有化を進め組織的に対応してもらいたいと思います。
保護者からは個人的な意見もありますが、概ね良好な意見であるため学校のガイダンスや教育相談体制が充実していると感じます。
- 昨今、精神的な障害や病気をもつ生徒が増えている中、これらに対する御校の対応には前々から定評があり、今後も熱心な指導を期待します。
- 「保護者」の意見の中の、寮生の食事のことが気になりました(部外者なのでよくわかりませんが)。2は生徒指導との関連も強いと思います。「生徒指導提要」が改訂されました。私事で恐縮ですが、昨年、日本生徒指導学会に参加する機会(高校の先生もたくさん参加しています)を得て、この提要の改訂責任者(座長)の八並先生(東京理大教授)の御講演(というよりも、裏話です)を聴きました。この改訂になみなみなならぬ決意で向き合い、すべての児童生徒が充実した学校生活を送ってほしいという強い思いで作成したということでした。過去には多かった、文科省が作成する役所的な文書ではないことを実感しました。これまでの提要が先生方に十分には浸透しなかったとの反省から、改訂版はWeb上で公開し、現場の先生方が活用しやすいように工夫されています。私もすべてを見ているわけではありませんが、「生徒の多様化」という観点からみれば、いじめや不登校などはもどろんのこと、校則問題やLGBTQ、ヤングケアラーなど今日的な諸課題などについての理解が深まると思います。まずは、「生徒指導提要」というものがあるということ、生徒理解・指導・支援に活用できるということを生先生方に知っていただくような機会をもつことが重要だと考えます。加えて、保護者や評議員などにも知っていただくことも考えられます。
- 多様な生徒をかかえている現状がみられるが、保護者のコメントをみると、先生方が親身になって個別指導などを行い、努力を惜しまず生徒に関わっている様子が受け取れる。ただ、前の項目同様、教員間の指導方法に対する共通意識や共通理解が足りないように感じる。
教員によって評価がことなると、生徒が困惑し、不信任をいだいてしまうので、指導や評価が、共通認識をもって行われることが必要である。今日、家庭環境の格差や能力の相違、人間関係を築く能力の差、発達障害的な性格をもつ生徒の多さなど、指導するうえで多様な困難をかかえていることが理解できる。しかし、その中で、個々人の成長のために悩み、努力しておられる先生方の姿勢は大変大切で、すぐに結果が見えなくとも今後も地道な努力を期待している。安全教育に関しては、特にコロナ禍にあってもいろいろ対策が取られ、保護者も安心しているようで、大いに評価に値すると思われる。

3 育てたい資質・能力の育成

- コミュニケーション能力が社会に出た時必ず必要になります。コミュニケーション能力向上のための取組みを必須だと思います。
- 主体性・論理性・判断力・表現力の育成を意識した授業改善に努力している姿勢が見られ、さらにより良い方向に向けた工夫改善のアイデアも出され好感が持てます。
保護者からも海外見学旅行実施における効果が指摘されており、教育活動の工夫・改善が進んでいると感じます。
- 御校に求められていること(特長)の大きな一つが、海外見学旅行や海外留学。生徒の主体性や語学力向上などに向け、しっかりとした取組みをお願いします。
- この項目はほかの項目とに関連が深いと思います。その意味では「自己評価」が海外見学旅行の取組以外は学習指導が中心のように思います。「内容」では「…もとより学校教育全体で…」とあるとおりでと思いますので、「具体的な取組」の範囲がやや狭いような感じがします。
- 生徒の主体的な学習を望む先生方の意向がよく理解できる。しかし、これも難しい問題であり、授業改善検討チームを立ち上げても、計画通りには進んでいないようである。しかし、現在は改善途上であり、結果を追い求めるのではなく、日々の悪戦苦闘のなかにこそ得られるものがあると思われるので、今後も前向きに、教員間の意思疎通をはかって努力していくことを望む。海外見学旅行なども始まり、新しい試みによって生徒の意識も変わってくるのではないかと。保護者も期待しているようである。

4 3年間を見通した計画的な進路指導の充実

- 一人一人の進路決定時期は、違うと思いますので先生と生徒のコミュニケーションがより必要だと思います。
- 進路指導の基盤となる総合的な探究の時間が計画的に進められています。新たな課題も指摘されていることから、生徒を視点に置いた工夫改善をお願いします。
企業と連携したプレゼンやインターンシップが行われ、コミュニケーション能力育成の観点からも良い実践であると感じます。
- 現実的にはなるが、御校のもつ大学への推薦枠は魅力の一つ。今後も幅の広い進路指導を期待します。
- 「進路指導」はキャリア教育の視点から見ると、中学校段階と高校段階のキャリア教育を特に進路指導と言い換え、位置付けていますが、現実には出口指導のみに関心と期待が集まりがちになっています。学校に期待されることなどから考えるとやむを得ませんが、進路実績は人生の通過点ということを先生方が忘れずに、Well-beingの視点からの指導や進路相談を大切にしつつ、進路指導を充実を図っていただ期待とします。
- 保護者のコメントをみると、生徒の進路に合わせて教員が熱心に寄り添いながら指導していることが評価されているので、ある程度、教員側の意向や努力が保護者に伝わっていて、良い評価が得られていると言える。今後、さらに各学年での指導目標を設ける、個々人の希望をよく聴いてそれに沿った指導を徹底する、3年間を通した努力目標を掲げるなどのことを充実させ、ここでも教員間の意思疎通をしっかりとすることが必要となるだろう。また、学習力向上のための特別講座や模擬テストの実施等も、教員の負担は大きいですが、さらに検討する必要性がうかがわれる。

5 地域や保護者との連携を重視した教育活動の充実

- 地域や保護者との連携により社会の様々な世代の多様な人々と関わる活動は、たくさんすべき事だと思います。
- ICTを活用し保護者とは緊密な連携が取れていると思います。保護者からも良好な意見が多く、今後は内容の更なる充実をお願いします。
コロナも収束し少しずつ通常に戻ると思われるので、地域に出での清掃活動やボランティア活動の実施など地域と連携した取組に期待します。
- コロナ禍で非常に難しい期間が続いたと思われませんが、ようやく「日常」に戻りつつあり、今後も地域との連携を密にしなが積極的な展開をお願いします。
- 教育的な効果は大きいと思いますが、学校の、先生方の負担などが大きくなりすぎないように調整していただければと思います。教育目標や育てたい生徒像などと紐付けながら、重点化しての取組を期待いたします。
- 教員と保護者との連携はうまくとれているようである。保護者の理解が得られていることは学校にとって大変利益となるので、今後もこのような態勢を維持して欲しいと願う。
町内会や地域でのボランティア活動も良好ということなので、これも評価すべきことである。自分の住む地域を理解することや、その場所に住民に奉仕することは、SDG s の考え方からみても社会に貢献することになり、学習面だけでなく、人格形成にも力を入れていることをアピールすることになると思われる。さらに、このような活動を継続していくことを願う。

6 異学年相互の交流やボランティア活動等の工夫

- 高校生のうちにボランティア活動を通じて社会の一員である事を自覚出来るのは、凄い事です、海星学院の一つの特長であるボランティア活動に今後も力を入れていただく事を願います！
- 異学年の集団で活動する場面は、一般的に部活動か生徒会活動の一部であるため難しい面がありますが、生徒にとっては貴重な経験の場になるものと思います。
本校では異学年での交流やボランティア活動を重視し継続して教育活動に位置付けている点は、保護者からの良好な意見もあり、充実していて評価されていると感じます。
- この時期(高校時代)にこのような体験ができることは非常に意義が大きく、今後も積極的な活動展開を期待します。
- 自己評価、学校関係者評価ともに高評価であると思います。必要性と教育的効果は高いと思います。「異学年」を拡大解釈して、多様性やインクルーシブ教育の観点から特別支援学校との交流を期待いたします(すでに取り組んでいましたらお許してください)。
- 教員も保護者、その他の関係者もこの項目に関しては概ね良好と感じているのが受け取れる。コロナというハンディがあっても学内での交流は工夫をして交流が行われているようで、貴校の特色として大いにアピールすべき活動であろう。人間関係を築くうえで大切な活動であり、さらに他者への奉仕の精神を養う機会として行ってほしい。